

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2014年3月)

発表日2014年5月12日(月)

～2013年度は過去最小の黒字額に～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝  
TEL : 03-5221-4524

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
				貿易収支	サービス収支		
					貿易収支	サービス収支	
2013	1月	▲ 3,484	5,574	▲ 7,545	▲ 4,225	▲ 3,321	12,896
	2月	6,497	1,629	▲ 11,186	▲ 8,241	▲ 2,945	13,589
	3月	12,831	2,019	▲ 9,875	▲ 7,004	▲ 2,872	12,760
	4月	7,844	9,311	▲ 7,808	▲ 5,336	▲ 2,472	18,066
	5月	5,666	4,879	▲ 7,004	▲ 5,290	▲ 1,714	13,008
	6月	3,777	4,257	▲ 8,817	▲ 6,009	▲ 2,809	13,957
	7月	6,004	3,563	▲ 9,793	▲ 7,145	▲ 2,648	14,208
	8月	1,571	1,643	▲ 9,601	▲ 6,408	▲ 3,193	12,134
	9月	5,948	447	▲ 12,517	▲ 9,582	▲ 2,935	13,816
	10月	▲ 1,543	780	▲ 12,070	▲ 8,636	▲ 3,434	13,874
	11月	▲ 5,969	▲ 1,078	▲ 13,193	▲ 10,119	▲ 3,074	13,506
	12月	▲ 6,799	305	▲ 12,815	▲ 9,293	▲ 3,522	13,960
2014	1月	▲ 15,890	▲ 5,826	▲ 18,213	▲ 13,770	▲ 4,444	13,719
	2月	6,127	▲ 361	▲ 11,892	▲ 8,529	▲ 3,363	13,492
	3月	1,164	▲ 7,829	▲ 18,870	▲ 15,667	▲ 3,203	12,545

(出所)財務省「国際収支統計」

## ○経常収支（季節調整値）の赤字幅は過去最大に

2014年3月の経常収支（原数値）は1,164億円の黒字（コンセンサス：3,477億円の黒字、レンジ：107～12,500億円）と、コンセンサスを下回る結果となった。原数値では2ヶ月連続の黒字である。もともと、3月の経常収支は、企業の決算月が集中することから直接投資収益が増加しやすいなど、原数値で黒字が拡大する傾向があり、季節調整値では、7,829億円の赤字（2月：361億円の赤字）である。これは、比較できる1996年以降最大の赤字幅だ。輸出金額（前月比▲4.8%）が減少する一方で、消費税率引き上げ前の駆け込み需要を背景に輸入金額（同+5.9%）が増加し、貿易赤字が（2月：▲8,529億円→3月：▲15,667億円）大きく拡大したことが主因だ。

2013年度の経常収支は7,899億円（12年度42,233億円）の黒字と、1985年度以降で最小の黒字額となった。輸出が伸び悩む中、輸入が高水準で推移したことで貿易赤字（12年度▲5.2兆円→13年度▲10.9兆円）が大きく膨らんだことが原因である。第一次所得収支は、円安による受取額の増加や豊富な対外資産を背景に16.7兆円の黒字（12年度14.6兆円の黒字）と5年連続で増加した。

## ○対外直接投資収益が伸び悩み

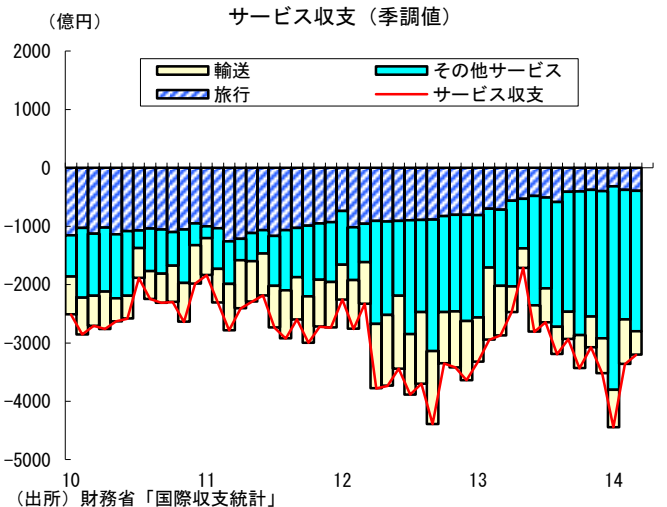
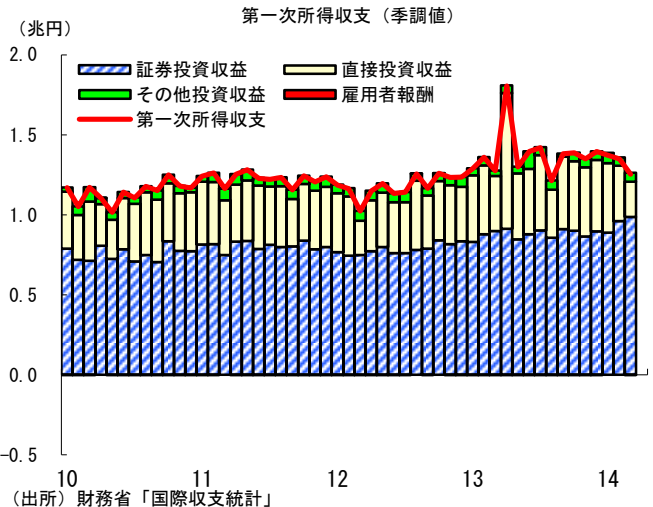
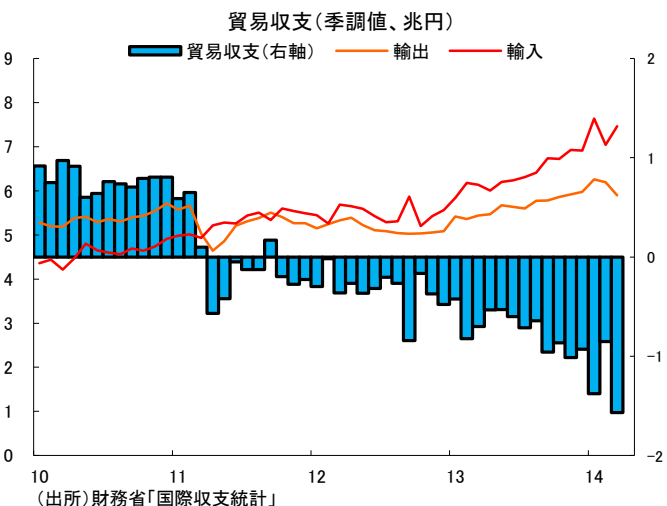
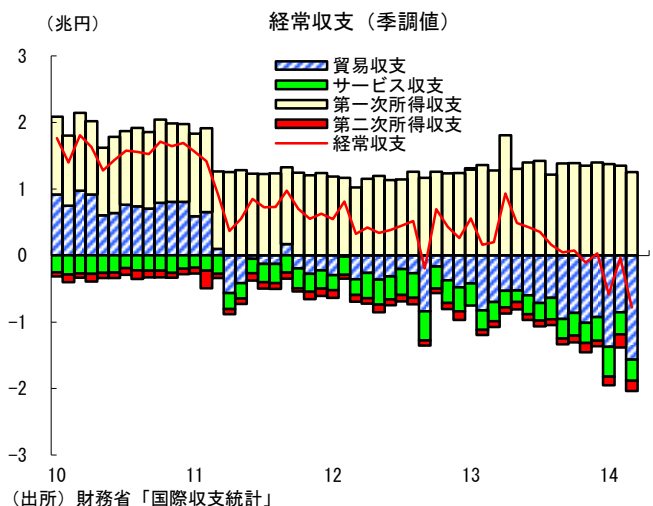
3月の貿易外収支（季節調整値）の動きをみると、第一次所得収支は12,545億円の黒字（2月：13,492億円の黒字）と黒字幅が縮小した。内訳をみると、証券投資収益の黒字は増加（2月：9,611億円黒字→3月：9,867億円黒字）したものの、直接投資収益の黒字額が減少（2月：3,456億円黒字→3月：2,199億円黒字）

したことで、第一次所得収支全体では黒字縮小となった。直接投資収益は3ヶ月連続の減少であり、水準を大きく切り下げている。もっとも、先行きは海外経済の回復が見込まれることや対外直接投資の実行超が続いていることなどを背景に黒字拡大傾向での推移が見込まれる。今回の黒字額縮小は、一時的な動きとみている。

サービス収支は、3,203億円の赤字（1月：3,363億円赤字）と2ヶ月連続で改善した。輸送収支が改善（2月：763億円赤字→3月：401億円赤字）したことが背景にある。旅行収支はほぼ横ばい（2月：381億円赤字→3月：393億円赤字）の状態が続いている。

### ○14年4月以降は黒字方向への推移が見込まれる

このように3月の経常収支（季節調整値）は過去最大の赤字額となったが、先行きは黒字方向への推移を見込んでいる。輸出が海外経済の持ち直しなどを背景に増加、輸入は駆け込み需要の反動などによって減少することが見込まれ、貿易赤字は縮小傾向で推移するだろう。貿易統計4月上中旬分速報を参考にすると、輸出は依然低迷の域を脱していないとみられるが、輸入は前月比大幅減少となる公算が大きい。この結果を踏まえると、4月の貿易赤字は縮小する可能性が高い。第一次所得収支は、海外経済の改善や豊富な対外資産などを背景に増加基調が維持されよう。総じてみれば、経常収支は14年度入り後、黒字基調に戻っていくものとみている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。